

「女性論」プロジェクト研究報告
A Report of the Women's Studies Project

目 次

研究員（五十音順）	4
はじめに	4
1 教員に対するインタビュー調査について	4
1) 調査の目的および方法	4
2) 調査の内容	5
3) 調査の結果	5
{ケース1} 20代 女性	5
{ケース2} 30代 男性	6
{ケース3} 30代 女性	6
{ケース4} 30代 女性	7
{ケース5} 40代 女性	8
{ケース6} 40代 女性	9
{ケース7} 40代 女性	10
{ケース8} 40代 男性	11
{ケース9} 40代 男性	11
{ケース10} 40代 男性	11
{ケース11} 40代 男性	13
{ケース12} 40代 男性	13
{ケース13} 50代 男性	14
{ケース14} 50代 男性	15
{ケース15} 50代 男性	15
{ケース16} 50代 男性	16
{ケース17} 50代 男性	16
{ケース18} 50代 男性	17
{ケース19} 50代 男性	18
{ケース20} 50代 男性	19
{ケース21} 50代 男性	20
{ケース22} 50代 女性	21
{ケース23} 50代 女性	22
{ケース24} 50代 女性	23
{ケース25} 70代 男性	23
2 学生に対するアンケート調査について	25
1) 調査の目的	25

2) 調査の方法	25
3) 調査の内容	25
4) 調査の結果および考察	25
5) まとめ	31
3 女性学・ジェンダー学関連カリキュラム調査について	34
1) 調査の目的および方法	34
2) 調査の内容	34
3) 調査の結果および考察	34
明日のために：おわりにかえて	37

「女性論」プロジェクト研究報告

A Report of the Women's Studies Project

研究員（五十音順）

東 珠実（椙山女学園大学現代マネジメント学部教授）
太田ふみ子（椙山女学園中学校・高等学校教頭）
影山穂波（椙山女学園大学国際コミュニケーション学部助教授）
塚田文子（椙山女学園大学現代マネジメント学部助教授）
藤原直子（椙山女学園大学人間関係学部助教授）
森川麗子（椙山女学園大学現代マネジメント学部教授 リーダー）

はじめに

これは、椙山人間学研究センターにおける「女性論」プロジェクトの活動報告である。内容は、①全研究員が所属部署を中心に教員に対して実施したインタビュー調査 ②東研究員が自身の講義で学生に対して実施したアンケート調査 ③太田、塚田、藤原、森川の各研究員が実施した本学園の女性学・ジェンダー学関連カリキュラム調査である。

1 教員に対するインタビュー調査について

1) 調査の目的および方法

6名の研究員が、平成17年12月から平成18年2月にかけて、各自の所属部署を中心とする同僚の専任教員にインタビューを実施した。インタビューの目的は2つに大別でき、「椙山女学園で育てたい女性像について」と「男女共同参画社会全般について」の教員の考えを知ることであった。

インタビューの依頼をする際には、できる限り、年齢層・性別・担当科目・専門領域において多様となるように、結果として本学園全体の平均的姿の把握に役立つような人選を心がけた。研究員のいない学部（生活科学部、文化情報学部）については、現代マネジメント学部所属の3人の研究員がインタビューを実施した。

結果として、インタビューをお引受けいただいた先生方の性別、年齢層、所属部署は以下のようなものである。多忙な先生方が、このインタビューのために貴重な時間を快く提供していただいたことを大変ありがたく思い、心より感謝していることをここに記しておきたい。

総数	26人
性別	男性：17人 女性：9人
年齢層	20代：女性1人 30代：男性1人・女性2人 40代：男性5人・女性3人 50代：男性9人・女性3人 70代：男性2人
所属部署	高校：8人 大学：18人（生活科学部4人 人間関係学部3人 文化情報学部3人 国際コミュニケーション学部2人 現代マネジメント学部6人）

2) 調査の内容

インタビューの際の質問項目は以下のものである。基本的に、その場で口頭でお尋ねしたが、手元においた質問項目を見ながらお考えをうかがうというケースはいくつかあった。

{インタビュー質問項目一覧}

(1) 相山女学園で育てたい女性像について

- ① どんな女性になってほしいか。
- ② そのために教育活動の中で実践していることは何か。
- ③ 本学園の生徒や学生が最も望んでいる将来像はどのようなものか。
- ④ 女子教育機関であることが、在校生や卒業生に、どのように意識されているか。
- ⑤ 女子教育機関の利点として、今後（本学園が）意識的に強化すべきことは何か。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ① 男女の望ましい関係や生き方について、どう考えているか。
- ② 生活と仕事の調和については、どう思うか。
- ③ 男女共同参画社会と女子教育機関の関係について、どう考えているか。

3) 調査の結果

以下はその結果報告である。年齢順に {ケース1} から {ケース26} までとし、両性の順序は、年齢層ごとに入れ替えた。回答は、形式上の統一以外は、担当科目名も含めて、インタビューを実施した研究員の報告のままである。結果として、口語調を活かしたものから要約風のものまで多様なスタイルの報告となったが、このような多様性を楽しんでいただければ幸いである。

.....

{ケース1} 20代 女性

(1) 相山女学園で育てたい女性像について

- ① “自分のことば”で物事を考え、それを駆使して物事の分別ができる人になってほしいと考える。“自分のことば”を養うためには知識を蓄えることが必要。よって、「飽きることなくより多くのことを得て吸収しようとする好奇心のあること」、そして「挑戦できること」が不可欠であると考えます。
 - ② 教科であれば、ディベートやプレゼンテーションに取り組んでいる。それらは“自分のことば”で考え、そして表現することが求められる活動であると思われるからである。時間も労力もかかるが、単なる解答の暗記ではなく、その“意味や解釈”を考えることが大切だと生徒が気づき理解できるよう取り組んで行きたいと考える。また、週1レポートを課し、新聞やTV番組などのメディアから発信される情報の中からテーマや記事を選び、自分の考えをまとめるという取り組みも実践している。
- こうした活動が、やがて学生を卒業してからもその生徒自身の力として蓄えられ、そしてこの力が社会や人生において役立てられるような力になることを願いたい。

- ③本学の生徒や学生が“自分自身”に対して描く将来像は、「いつの時点でも自己目標を持ち、その目標に向かって努力し続けられる余裕がある」ということではないかと思われる。
- ④在学中はさほど意識されていないと思われるが、卒業してから一般社会に触れると女子校特有の文化や習慣があることを痛切に実感することになるようである。そのギャップのようなものを、時と場合によって使い分けながら一般社会を生き抜いていると思われる。
- ⑤女子教育機関の利点とは言いがたいが、“社会”で求められる能力をつけることではないかと思われる。やはり①で述べたように“自分のことば”で考え、表現できる力であると考える。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①性別にとらわれることなく、“自分らしく”自分の人生を生きられるとよいと思う。
- ②今、私自身も抱える課題のひとつである。女性として生活と仕事を両立することの難しさを実感している。時と場合によって、その二つのバランスをうまく調和できればよい。
- ③女子校だから何ができるのかと問われればなかなか答えにくいですが、社会で通用する人材・大人として求められる力をしっかり持った人間に育てることが大切であると思われる。

.....
[ケース2] 30代 男性

(1) 椙山女学園で育てたい女性像について

- ①自分で考え、自分で判断できる女性。独立した考えを持てる女性。「みんながやるから」ではなく、「私はこうしたい」からする、というように、自主的に行動できる女性。
- ②主に、卒業研究指導の際に個々の学生が他人がするからではなく、自分の考えで判断し、それに沿って行動できるよう、忍耐強く指導している。
- ③バリバリのキャリアウーマンになりたいというよりは、経済的な苦勞をすることなく楽しく生きられればそのほうが良いと考えている学生が多いことを最近知った。
- ④女子大は安心で安全な場所であり、何でも自由に言えるし、やりたいことができる場所という意識が強いと思う。学生が教員に対して友人のような言葉使いをすることに象徴されるような親しさには、違和感を抱き始めたところである。
- ⑤個人的には、女子校や女子大は不要だと考えている。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①男性も女性も自立したひとりの人間として関わりあう関係が望ましいと考える。
- ②現状では、女性が職場で男性と同等の権利を獲得することが大切である。
- ③個人的には、女子大へ来てはじめて男女間の不平等を痛感した。男女共同参画社会にふさわしく、個々の違いを認めながら、自立し、独立した女性になってほしい。

.....
[ケース3] 30代 女性

(1) 椙山女学園で育てたい女性像について

- ①自分の考えを持ち、それを理論立てて他者に話せる女性になってほしい。また、自分の主

張だけでなく、相手の立場に立って考えられる視野を持った女性になってほしい。

- ②最近の生徒は、自分の過失に対して甘く、他者については厳しい気がしている。女性だから優しくと言うのではなく、人間として自分中心にならないように、クラス活動等の中でその都度注意したり、話したりしている。
- ③相高生は、明るく快活で能力的にも恵まれている。その力を社会に出て発揮できる場が与えられることを望んでいると思う。
- ④女性だけで生徒会活動も文化祭もレベルの高い物に仕上げてきたことは、大きな自信になっていると思う。
- ⑤まだまだ、男性の次になりそうな女性の就職についても主体的に選べるような機会を与え、また、その機会を生かせる力をつけること。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①男性だから、女性だから、という区別ではなく、人間同士としてお互いの足りないところは補い、良いところは生かしていくのが良いと思う。
- ②夫となる人が女性はこのようではなくてはならない、という考え方をしなければ、生活と仕事はかなり調和できると思う。
- ③今までの社会は、女性自身が自分たちの生き方を狭める考えを持っていたように思う。まずは、女子教育機関が女性に多くの可能性を示していくべきだと考えている。

.....

【ケース4】30代 女性

(1) 相山女学園で育てたい女性像について

主体的にいきいきと生きていける女性になってほしい。自分のライフワークを見つけ、自分でしか埋められない領域を開拓し、人や社会の役にたち、自分の人生を豊かに送れる人。「ライフワーク」が仕事であり、経済的な自立をすることが望ましいが、必ずしも収入をえられる仕事でなくても家庭での仕事、地域でのボランティアでもよい。

学生をフォーマルな場面、インフォーマルな場面でエンカレッジするように心がけている。「どうせわたしなんか」「みんながこうだから自分もこれでいいや」という気持ちで現状に甘んじることなく、自分の可能性を信じて、努力していけるように勇気づけているつもりである。

教員2名で担当する授業のなかでは、女性のさまざまなライフスタイルの可能性を示すとともに、いろいろな場で活躍している卒業生をゲストに呼び話をしてもらっている。そして「生き生きと自分らしく生きる」ことのモデルを示そうとしている。また同じく共同のゼミでは、受講生全員がリーダーシップをとり、見通しをもって物事を達成するプロセスについて経験的に学ばせている。そこでは「主体的に活動するのは楽しい」「積極的に関わりをもとめることは面倒くさいことではなく、自分の生活を豊かにしてくれることだ」という実感をえてもらえていると思う。最後に、自分自身が女性であることから、「あんな風に生きるのも素敵だな」と学生に思ってもらえるように、自分の仕事に熱意をもって取り組み、また楽しんでいる姿を学生に見せるように心がけている。

多様化している。「専門的なスキルを学んで、将来バリバリ働いていきたい」という学生もいるし、

「仕事と家庭の両立ができるような仕事を見つけて、どちらも充実させたい」という学生もいるし、「できるだけ経済的に豊かなパートナーと出会って、家庭や地域での活動を充実させたい」と思っている学生もいる。

個人的には、1番目と2番目の学生にシンパシーを感じるが、3番目も甘えではなく、主体的な選択であるのなら、よいと考えている。

学内での異性との関わりがないことを残念に思っている学生も多いと思う。しかしながら実際に女子大での大学生生活を送るうちに、「女子大でしか味わえないものがある」と満足感を感じるようになる学生も多い。その具体的内容は「密度の濃い友達関係を築くことができる」「男性の目を気にせずのびのびと行動できる・授業で発言できる・討論できる」など。本当は共学大学を志望していた学生のなかには、「女子大でよかった」と自己の選択を正当化すべく、女子大の環境を積極的に利用しようとしている人もいる。

女性の魅力的なライフスタイルを複数示して、「椋山に進学すればこのようなライフスタイルを歩むことができる」ということをアピールし、実際にそれをバックアップしていく。共学大学では「女性のライフスタイルのバックアップ」を積極的に打ち出すことはできない。(なんで女子だけなの？ということになるから。)実際には、現在の社会では、男性よりも女性の生き方が多様化しているので、迷いを感じている高校生も多いと思う。椋山で学んだことを糧にして、「椋山で学んだからこそ今の自分がある」と学生が思えるようにしたい。

(2)男女共同参画社会全般について

「おとこだから」「おんなだから」という理由で、自分のやりたいことを我慢したり、自分らしさを隠したりすることのない社会が望ましい。それが実現されれば、「男女の望ましい関係」ということは愚問になるだろう。それはすなわち「人と人との望ましい関係」ということになるから。それぞれが人間として、自分の得意分野、自分のやりたいこと、自分らしさを生かして、関わることができればよい。

男性の過重労働を改善し、女性のみが仕事と家庭を両立しなければならない状況を改善すべきである。男性と女性と社会が協力して、仕事&生活を「人間らしく」調和させる世の中が必要である。

椋山は女子学生をエンパワーメントして、自分の歩みたいライフスタイルを歩むことのできるスキルを身に付けさせるところである。それはすなわち、生き生きと社会で活躍できる女性を育成することであるため、男女共同参画社会の実現に貢献することになると思う。

.....

[ケース5] 40代 女性

(1) 椋山女学園で育てたい女性像について

- ① 問題解決能力を備えた女性になって欲しい。椋山の学生には自然体で、かつ、意欲的に、自分のやりたい道を見つけて、それを実現して欲しい。言葉遣いに気をつけ、人を気遣う姿勢をもった女性になって欲しい。なすがまま、なされるがままではいけないが、必要以上に良く見せるようなことはせず、無理をしない女性になってほしい。結果を

予想する力をつけて欲しい。少し先を見る能力をもった女性になって欲しい。

- ②授業の中では、家族、消費者、環境に関連して、できる限り自分の身近なことから題材を選び、その中で、問題に気がついてもらえるように指導している。また、卒論の中で、自らを取り上げた問題に対して、提言・意見が述べられるように指導を行っている。
- ③就職しキャリア重視の学生がいるとともに家庭を大事に考える学生もいるように思う。
- ④女性だけで、気の置けない自由な感覚があるとともに、共学とは異なり、何でも自分たちでしなければならない。例えば、学園祭等では、自分達だけで、企画、実践しなくてはならない。力仕事なども全て、女性だけで行い、運営していくなど、比較的、主体的な意識があるように思う。
- ⑤今後も就職へのサポートや、マナーに気をつける態度を醸成できるように意欲的に教育していくことが大切であるように思う。

(2)男女共同参画社会全般について

- ①男女が性別にとらわれず、自分の活躍できる場で活躍する。人には向き不向きがある。それぞれの性の持ち味を活かしながら、自分らしく能力に合わせた生き方をする。役割分担は性別で決めていくのではなく、その人その人の個性に応じて決めていくことが望ましいと思う。
- ②性別で決めるのではなく、仕事のあり方、家族のあり方について、個人がどう考えているかに合わせて、生活と仕事の調和を図る。
- ③男女共同参画の理念は自分のやりたいことを通して社会に貢献できる『仕組みづくり』若しくは『制度』を作ることではないだろうか。男女共同参画社会の趣旨は専業主婦を否定するわけではない。また皆が皆、サラリーマンになることを奨励するわけではない。自分らしく生きるための『考え方作り』であると思う。女子大は学生たちが、自分達で、考え、企画し、実践していく場として、とても重要な役割を担っていると思う。

.....

[ケース6] 40代 女性

(1) 椋山女学園で育てたい女性像について

- ①自立した社会人になって欲しい。
国際性を兼ね備えた女性になって欲しい。
語学に興味をもって欲しい。
柔軟性を持った、たくましい女性になって欲しい。
- ②授業の中で、様々な刺激を与えて、指導している。例えば、日本内外の他の大学生の就職状況や生活を紹介して、志あるその生き方など、自分たちが参考になる点など、話し合う。
- ③年々、仕事をしたい学生が多くなっている。
- ④女性が中心の、のびやかな生活をしている。大規模な共学の大学と異なり、どちらかというと、少人数でコミュニケーションがとりやすく、男子がいないので、役割分担、例えば、男子は荷物を持つ、女子はお茶を入れるなどの役割分担がなく、自立心がある。前いた共

学の大学と較べて、語学の時間など、大変積極的に授業に参加している。

- ⑤男女平等意識を大学時代から育てるべきである。学生を過保護にせず、大学時代に色々な経験をさせて欲しい。

(2)男女共同参画社会全般について

- ①男女が役割分担せず、平等に生きる。
- ②自分の専門だけでなく、広い視野をもって、自信をもって、社会に出て欲しい。
- ③自分が今まで、育ってきた環境では男女共同参画はごく普通のことであった。特に、女子教育と関係づけて取り立てて考えることはなかった。

.....

{ケース7} 40代 女性

(1) 相山女学園で育てたい女性像について

- ①相手の状況、場の状況を考えての行動が出来る人間になって欲しい
公的場、私的場をわきまえた上で、積極的な人間になって欲しい。
相手を思いやりつつ、明朗な対人関係を作れる人間になって欲しい。
権利の主張だけでなく、義務と責任を自覚できる人間になって欲しい。
- ②まずは自分から「挨拶」することを心がけている。常に相手の存在を意識してもらいたいと考えている。
以前の授業では、受身の学習ばかりでなく、自分から取り組む調査・研究。グループ活動を通じて、相手に助けられて成り立つものを自覚してもらいたいと考えていた。
- ③満足と自信を持って仕事の出来る社会人。
- ④社会的に優位にいる男性、性差を自覚させられる男性を意識することなく活動できた空間と考えている卒業生。
社会に出て、男性の存在を意識させられて、女子校・女子大が特殊な環境だったことを自覚させられたという卒業生。
- ⑤学生にとって、とくに女子教育機関だからという利点があるのかどうか分からない。
強いていえば、能力を発揮する上で男女差がないことを自覚できて、頑張りも苦労も出来るようにしてあげる。逆に女であることに甘える人間にならないよう気を付ける。そのためにも、女子教育機関が「女子だから、4年間で卒業させてやらなければならない」的な発想は絶対もたないこと。

(2)男女共同参画社会全般について

- ①性別以前に、人間として対等に接することが出来るよう望む。
対等に協力し合う関係になることを望む。
- ②生活においても仕事においても、従来の性差による仕事の分担や枠組みが弱まると良い。
女性の長所、男性の長所があるので、一概に同等というのも難しいが、お互いに同等意識だけでもあれば、感情の上で救われる点も多いのではないかと思う。
- ③女子教育機関が、一般社会に対して特殊な環境にあるので、女子だからと甘えさせるので

はなく、より厳しく学生と向き合わないといけない教育環境だと考える。将来、一般社会の一員になることを考えると、男女にかかわらず、良くも悪くも正当な評価を常に自覚させられる環境を保つことが大事だと考える。

.....

【ケース8】 40代 男性

(1) 相山女学園で育てたい女性像

- ①単なるOLではなく、国際的にも活躍できるような、自立した女性になってほしい。
- ②自分の将来を考えるきっかけとなるよう、多様で具体的なモデルを授業中に提供する。
- ③毎年印象が異なるが、最近は、どうも専業主婦志向が減少気味だと感じる。
- ④相大への誇りと、相大生としての誇りを持っている。
- ⑤男性のいない女性だけの空間をもっと徹底的に利用し、女性をもっとパワフルにできる。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①何よりも男女間のバランスが今日本ではとくに求められていると思う。
- ②生活と仕事の調和したライフスタイルを実践している人々を手本として示すことが必要であると同時に役立つのではないか。
- ③女子教育機関は自己成長や自己証明に最適な場となれる。
相大生の手の届く範囲での成功例をできるだけ多く紹介することが、男女共同参画社会への貢献ともなる。同時に、学生に将来への多様なビジョンを提供すべきである。

.....

【ケース9】 40代 男性

(1) 相山女学園で育てたい女性像について

- ①社会に出てから様々な問題に直面することが多い。解決に向けて自ら判断し、行動できるバイタリティのある人物になってほしいと思っている。
- ②教科「情報」での広義の意味でのコミュニケーション論、プレゼンテーション論など。数学の授業における論理的な思考法。ロジックの組み立てなど。
- ③あいまいとしたもので、はっきりとしたイメージがないんじゃないかと思う。現実的なものではなく、メディアの影響等でのあこがれる的なものはあるかもしれないが。
- ④意識の部分は、具体的にはよく分からないが、卒業生は、女子校としての相山にプライドを感じていると思う。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①人それぞれだと思うが、自分らしさが生かせるものがあればよいと感じる。
- ②調和というか、両立の部分はとても難しいものがあると感じる。これからの社会のあり方等にも関連すると思う。

.....

【ケース10】 40代 男性

(1) 相山女学園で育てたい女性像について

- ①困難を乗り越えていける力を持った女性。そしてそれは「自分ひとりではできない」ということをしている女性。
- ②特に意識しているのは、生徒会活動や学園祭。ミュージカルにしろ、展示にしろ、絶対に一人ではできない。みんなと力をあわせないと出来ないが、それをやるためにはつらい思いやトラブルを乗り越えていかなければならない。相校生は全体としてそんな力を身につけてくれていると思う。
- ③生きがい、働き甲斐のある人生・・・そのためには平和な社会。
- ④「男子がいないから全て女子でやらなければならない」のが女子校・・・という意義はある。
- ⑤今までのジェンダー論を超えた本当に世の中が必要としていることを教育機関として実践していくこと。「論」ではなく、学生の実像、活躍などで世の中に示していくこと。産学共同になってもいいので、もっと社会とつながる活動を在学中にさせていく。教員も一緒に社会に出る。そうした活動の中で生じたトラブルには常に「人間になろう」のメッセージを出していく。

(2)男女共同参画社会全般について

- ①男女平等。
 - ②生活と仕事を対立的に考える傾向がよくない。(ニートとかフリーター増加とかも、ここに原因がある気がする。) 生活=仕事、仕事=生活と考えること。仕事=生活=人生ととらえること。だからその中で出てくる問題をどう解決していくかを主体的に考えていくことが大切。
 - ③(太田先生にはよくいうが) 今、バッシングの対象になっているのはアメリカ流のジェンダー。北欧型の男女平等に向けた運動が必要。スウェーデンから帰国した女性がジェンダーの講演会の後、「どうしても疑問があるのですが、どうして今日の講演で労働組合についての話が出てこなかったのですか？」と質問した。それに対して、講師が「日本の労働組合は男社会でなんともならない。政府や会社のトップのほうが理解がある」と答えていた。・・・だからダメなんだ。だからバッシングされるのだと思う。結局今までの「男らしさ」「女らしさ」という言葉を問題にした告発型のジェンダーは官僚と大学教授のものにしかならない。大衆的なものにならないと・・・。
- スウェーデンやノルウェーのクウォータ制もなぜ出来たのかといたら社民党が多数党だから。そして社民党の活動を現場で支えて担っている労働組合や生協などの執行委員や役員の大半が女性だから。
- 生活の現場で人々の要求を束ねて、考えの違う人、思想の違う人と要求の一致点で協力して実現していく・・・そうした積み重ねの中で、平等な社会が実現していくはず。スウェーデンと愛知県の人口は確か同じくらいだったはずだから、そういうことの震源地に相山がなっていけると良い。
-

【ケース11】40代 男性

(1) 椋山女学園で育てたい女性像について

- ①生きる力のある強い人間になって欲しい
性別役割分業を変えようと思ったが、それよりも生活力がある強い人間なら不平等を打ち破ることができる。
- ②標語として「生きる力」が気に入っており、それを生かしたいと思う。
基礎ゼミでは好きなことを話させているが、これは自前で調べて集めた情報で質問に答える形式であり、本人に自信をつけさせるためのもの。
- ③ジェンダーフリーに働いて欲しい。
- ④高校が女子校であった子と共学であった子とでは反応が違うし一概には言えない。
- ⑤性別役割分業を促進することがないため、教育内容をジェンダー化されたものではなく多様に展開させることができるし必要。
女性同士のネットワーク、結節点を強化することが大切。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①最近では1人で行動する人が増えている。これが男女ともに浸透すればいいと思う。
 - ②女性が仕事をするということについて国際比較をすれば、女性の就業率が高いほど出生率の高い国がある。これを理解できない学生が多い。日本のほうに仕事が忙しくて子どもを作れないことは本当はおかしい。どちらも充実させることが大切ではないか。
 - ③男女共学化の動きもあるが、男性はすでに連帯しており、それに対する女性にとっての連帯も必要。女子教育機関はその役割をはたしている。
-

【ケース12】40代 男性

(1) 椋山女学園で育てたい女性像について

キャッチコピーは「21世紀の良妻賢母」。「良妻賢母」という言葉に時代錯誤、違和感を感じられるかもしれないが、椋山のこれまでの歩みや、椋山に対して社会が抱いているイメージを考えると、「コピー」としては悪くないと考える。

ただし当然のことながら、必ずしもみんながみんな「妻」や「母」になるという前提ではなく、一人の人間として、「良き女性」「賢い女性」であろうということをなじみのある語で表現するところかな、といったところ。また「21世紀の」と付いているところがミソ。ここに「パソコンや情報技術を使いこなす」「『家庭』や『地域』、『日本』のといった枠にとらわれず活躍する」「自分の意見を自分の言葉で表現できる」といった、従来の「良妻賢母」像からはずれるかもしれない暮らし方、生き方を込めているつもり。

とくに上記のコピーを踏まえて特別なことをしているわけではない。そうした中で敢えて意識して取り組んでいることを挙げると言われれば、さまざまな「リテラシー」教育か。とくに演習などの少人数教育の中で、「情報技術(パソコン操作術など)」と「発表の技術」の重要性を強調している。

大学を卒業して、企業に就職。しばらくして結婚、で寿退社…。「もっとも望んでいる」を「もっとも多くの学生が標準として考えている」と解釈すればこうなるか。人生もっと違った選択があるということに気づいていない学生が多いと思う。

わからない。

逆説的かもしれないが、従来の女性像にとらわれずに、「女の生き方の多様性」を学生に徹底して教育していくこと。「『1-3』に挙げた『将来像』とは違う生き方を君たちは選択することができるのだ」ということを教えること。「女しかない」という状況だからこそ、こうした取り組みを積極的に行うことができる可能性があると考えます。

(2)男女共同参画社会全般について

「教科書」的な物言いになってしまうが、男だ、女だということにとらわれず、一人の人間として生きていくことが可能な社会になることが望ましいと考える。

子どもはいないが、家事はそこそこのつかい、ずいぶんやっているつもり。ただしこれは「大学教員」という時間が自由になる職業に就いているから可能なのだろう。もしふつうの企業に勤めていたら、今のような生活が可能かどうかは疑問。ただ本来は今のように「会社(大学)」にしばられず、比較的自由に自分の生活にあてられる時間がアレンジできるのが望ましいとは思いますが…。

上記(1) に関係するが、「女子教育機関」だからこそ、今の社会のあり方や女性の生き方を積極的に変えていく先導役になれる可能性はあると考える。所詮男は保守的なので(なんて「男」としてひとくくりにしてしまうことが問題なのは承知しているが…)、女がまずは変わらないと。そうすれば、引きずられるようにして男も変わっていくかも。そんな風にしないと、今の日本では状況を大きく変えるのは難しいのでは。

.....

[ケース13] 50代 男性

(1) 相山女学園で育てたい女性像について

卒業後の自分の生き方が決められる、自己成長のスキルを持った女性。

授業に使用するテキストや資料で、なりたい女性像に関連した内容のものを選ぶ。あるいは、個々の学生に機会あるごとにそういう話をするを心がけている。

仕事を結婚後も持続したいと考えている学生が多くなってきていると感じている。

学生は女子大であることをしっかりと意識していると思う。

利点はある。トヨタのような企業とタイアップしてはどうか。

(2)男女共同参画社会全般について

性別は関係ない。個人の問題であり、自分らしく生きることが大切。

日本の現状は調和が取れていない。働きすぎの傾向には反対である。

大学の4年間を利用して、男女共同参画社会の理念をしっかりと教えるべきであり、それだけの価値があることだと考える。

.....

【ケース14】50代 男性

(1) 相山女学園で育てたい女性像について

- ①自立した女性。男と同じではなく、女性の特性を活かした自立。
- ②自主的に考えさせる練習を授業で実践している。
- ③学生の半分は結婚願望が高いと思う。
- ④女性だけだと気楽であると同時に洗練された女性になれるという意識も高い。相大生としての誇りを抱いていると思う。
- ⑤教員が、女子大でないといけないことを見つける必要がある。相山という名前には、のびのび・おっとりという意味を持った一つの名前であり、これを継承すること。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①男女共同参画社会の理念に賛成。多様な生き方を認めることが肝要。
 - ②現状では、女性の負担が大きすぎるのではないか。
 - ③男女共同参画社会の理念と女子教育機関は矛盾すると思う。
-

【ケース15】50代 男性

(1) 相山女学園で育てたい女性像について

あまり男性だ女性だというのは気にしていない。だから、どんな人間になってほしいか、ということとで答えたい。まずは、好奇心豊かで探究心を持った人間が望ましいと思う。さらに、人間が様々な人間関係で結ばれていることを了解し、その中には多様な人間がいて身の危険につながるような相手も含まれるものの、人間に対する基本的な信頼を持っていて欲しい。講義で話していることは、知ることの面白さ、それを表現することの面白さ、人間の多様さを知ることの重要性。

残念ながら上記項目には矛盾する将来像(あるいは自己イメージ)を持っているのではないかとと思われる。新しい世界には目もくれず(あるいは関心を示さず)、限られた世界にしか手を伸ばそうとしない。悪く言えば保守的、よく言えば堅実。

これも残念ながら、女性教育機関としての意識が少ないのではないかとと思われる。「女子」教育機関と言う風に呼んでいていいのかな。「男子本懐に入る」の「男子」に対する「女子」なのかな。「女子」は「女子供」というほうのイメージが強いのではないか。しかし、「女子大学ではなく、女性大学」というのはなかなか普及しないね。

しかし、だからといって女性教育機関としての特質を發揮できないのも困る。男女共同参画社会とはいえ女性にとって対抗的な状況にあることについて教育する必要があるのではないか。関連して男性学なども必要ではないか。

(2) 男女共同参画社会全般について

ひとつではなくたくさんある可能性の中から選択すればよいのだと思う。だから、まずたくさんの生き方や関係のあり方を学び、どれが自分に合うのか主体的に判断するチカラを身につけることだろうと思う。

生活と仕事は一体なんだろうね。分離することはないだろうに。改めて調和ということばが出てくること自体近代主義の落とし穴にはまっているのだと思う。

男女共同参画社会というプロジェクトや「女性教育機関」が必要と考えること自体が近代主義の罠なんだろうね。理想的にはどちらも無い方がいいということだろうね。

.....

【ケース16】 50代 男性

(1) 榎山女学園で育てたい女性像について

- ①経済的にも、精神的にも自立できる女性であって欲しい。マスコミ・メディア・営利追求の流れを、きちんと見極め行動できる判断力を持ち、きちんと批判できる人となって欲しい。
- ②日常的に、折に触れ生徒に話をするが高校生・中学生高学年の生徒の中には、すでに流されていると感じる生徒も少なくない。
- ③根底には、自立できる人を目指すことを望んでいると思われるが、日々の生活の中で、より強い刺激を求めてしまう傾向を感じる。
- ④日常的には、「女子教育機関」であると言う意識は、生徒・学生の中にはないと思う。ことさら、榎山女学園が「女子教育機関」であると生徒・学生に意識させることは、個人としては好ましく思わない。
- ⑤学園の経営戦略と教育の方向との接点を模索することが肝要と思う。
女子校を前面に出す必要性は感じていない。「人間になろう」でよいと思う。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①対角線的な発想から脱却すべきと考える。
性別を問わず、「人」をみる力を身に付ければ、そこから生まれる関係は是と思う。
- ②残念ながら、今現在一般的には、職場環境が整備されていない。理解能力を有するパートナーを選択するしかない。
- ③「能力の高い女性」を育成するしかないと思う。
「女性側より、男性側の教育」が必要であることを、多くの場面で発信すること。

.....

【ケース17】 50代 男性

(1) 榎山女学園で育てたい女性像について

- ①自分で物事を考え、判断できる女性になって欲しい。そのためには問題発見ができ、その問題が、いったい、どのように出てきているのか解釈できる女性になって欲しい。それが、生きていくための力だと考えている。
- ②一つの例としてであるが、授業の中で、実社会におけるトラブルの事例について話し合っている。例えば、職場の中で、何らかのトラブルに遭遇したとして、その事例を教材に使うとすると、その問題の所在がどこにあるか、また、どのように解釈したらよいか。解決については、必ずしも、全面的に取り扱っているとは言えないが、少なくとも、問題を発

見し、解釈する能力をつけることを実践しようとしている。

- ③就職をし、仕事を続けていくことを望む学生が増えていると思う。
- ④共学においては男性がリーダーシップを発揮し、それが、そのまま、再生産されていくが、女子大においては、自分たちがリーダーシップを発揮し、企画、運営に携わっていく。
- ⑤女性が今後必要とされるリーダーシップにおいては、共学よりも女子大の方がその経験、トレーニングなどの面で、よりメリットが大きいと思われる。

(2)男女共同参画社会全般について

- ①個人の選択に従って、キャリアを育てる方向でも、専業主婦として、キャリアを蓄積する方向でもよいと思う。あくまで、個人の選択である。昔に較べて、男性と女性の差というものはありません。昔に較べて、男性と女性の差というものはありません。昔に較べて、男性と女性の差というものはありません。
 - ②個人の希望に応じて、生活と仕事のバランスと調和が保たれるのがよい。
 - ③豊かな社会の中で、ある選択をした場合、その選択をしたことによって、できるだけ負荷の無いようになることが望ましい。男女共同参画社会においては、負荷を均等にしていけることがその基本的な目的であると思う。均等な負荷によって、特定の人が、不利益をこうむらないことが重要である。
- 選択が多様な現代社会において、女子大は、女性が社会で活躍するための意識や知識を学び、自己実現するための力を育てる。

【ケース18】50代 男性

(1)福山女学園で育てたい女性像について

- ①やさしい人、あいさつができる人、正直な人になってほしい。
信頼ができ、一緒にいて不愉快でない人、気持ちがいい人という側面も大事である。
仕事を適度にしながら結婚するというのが自然な姿であると思うが、結婚後も仕事ができるように資格をとらせたい。
- ②ゼミで必ず挨拶をするようにしている。学内であったときにも同様に挨拶をきちんとすることを大事にしている。
ゼミ生を呼ぶときは必ず「サン」づけにしている。立場を認識させ、親しさのなかにも距離をおくことを重視している。
- ③専門職に就くことを望んでいる学生が7~8割はいるのではないかと。
多くの学生は、20代後半で結婚したいと考えているが、結婚後も辞めなくてよい職場に行きたい、ずっと働きたいと考えている。
- ④女子大であることは意識されている。
共学の公立高校からきた学生は、はじめは女子だけで異様な感じがしたが、実際に入学してみると、外で思っていたよりも楽しく心地よい、と言っている。
企業は、女子大の学生は、(男子がいないので)何でも自分でやる(やれる)というイメージを持っている。

- ⑤挨拶のできる人、見て見ぬふりをしない人、相手に好印象を与える人、妙に照れたりせず良い意味で級長さんのような人（出るときには出る人）、礼儀をわきまえた人を育てる。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①男女とも働く場合は、家事などもすべて折半すべきと考える。

あとは各家庭がおかれた状況によって、お互いの考えによって決めるべきである。思いやりが大事である。

収入をたくさん得るためには共働きが必要であるが、男性の収入がしっかりあれば、それを支えるために家にいる人が必要ではないか。（家にいて疲れない、戻る「ホーム」が必要である。）

- ②それぞれの家庭の（夫婦の）おかれた状況によって異なる。それぞれで、バランスがとれていけばよい。

- ③女子であるからといって卒業生が社会に出て、自分が習ったこと以下のことをさせられないように（学んできたことを活かせるように）することが大事であり、大学も本人も、そのように努力すべきである。

社会に出てから能力を発揮できるように、ゼミを通して、専門分野をきちんと選び学ぶようにしてもらいたい。その部分は、教員としても責任をもって育てたい。

.....

[ケース19] 50代 男性

(1) 椋山女学園で育てたい女性像

- ①女性も企業社会のなかで十分に貢献できることを知ってもらい、そこで能力を活かせるような女性になってほしい。

そのためには、理系、文系を問わず、コミュニケーション能力をもつことが大事であると思う。

- ②専門的な技術を習得し活用することの「おもしろさ」を教えている。

企業において活用できるような技能や、その技能によって起業できるような具体的な知識、技術、ノウハウを身につけさせるような指導を目指している。

- ③いわゆる「玉の輿」的な専業主婦志向の者も多いが、一方で、専門的な職業に就いて自立してやっていきたい、そのために必要な力を付けたい、という希望を持っている学生も一定数はいる。

- ④男子に気をつかわなくていいから、のびのびとリーダーシップがとれるという意見を聞く。

- ⑤公開講座などで女性社長などを招くなどして、女性が社会的にリーダーシップをとってやっていけるということを具体的に提示したり、そうなるためのチャンスや環境を数多く与えてやることが大事である。

技術や資格を取得させたい（それらは受動的なものであるが）、これを自発的なクリエイティブな勉強をしていくためのきっかけとさせたい。チャンスが来たら、すぐにそれに食いついていけるような力を身につけさせたい。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①各ペアにとって、それぞれバランスがとれていれば、どのような関係でも、どのような生き方をしてもよい。専業主夫も悪くはない。
- ②家事と仕事の分担について、それぞれのパートナーとの関係において調和がとれていればよいと思う。
- ③女子教育機関では、今後、社会貢献できるような女子を育てるべきである。とくに、女性の緻密さや感性を社会で活かせるような人材を育てていきたい。
男女共同参画といった場合、女性の「出産」をどう考えるかという問題がある。これについては、国の体制に期待するところが大きい。出産・育児をきっかけに家庭にいる女性たちが、やがて「社会とのかかわりをもちたい」「社会に貢献したい」と思ったときに、地域活動やボランティア活動だけでなく、報酬を伴う選択肢を選ぶことができるようにしてやりたい。その場合、資格や技術によって家庭にいながらにして仕事に参画できる、といった選択肢に応えられるような技能を身につけさせることが大事である。

.....

[ケース20] 50代 男性

(1) 相山女学園で育てたい女性像

- ①女性云々というよりは、人間的に貧しくない人、「豊かな人」になってほしい。
ここでいう「豊かな人」とは、精神的に卑しくない人、尊厳を有する人、諂ったり、傲慢でない人である。
多くの学生は豊かであるが、時代の影響からか、男女を問わず、そうでない若者も目に付く。仏教、儒教の教えなど、どこかで人間としての「規範」に触れる機会が必要と思われる。
- ②「人間論」のなかで、さまざまな人間のありようを、紹介している。
ゼミ生にも、その都度、説教をしている。「和して同せず」の精神を伝えている。
授業中は、私語に厳しくしている。化粧についても同様である。化粧は、プロセスを他人に見せるものではない。人間としての「エレガンス」を大事にしてほしいと考えている。
- ③あるところ、平均的ないい家庭をつくろうという思考をもっているが、同時に、心豊かであればならないという気持ちももっていると思う。
自分にふさわしい（納得できるような）配偶者を求めたいと考えており、それなりの子育て観ももっているように思う。ただし、野心を持っている者は少ない。
- ④女子大に所属していることを7~8割の学生は肯定的にとらえている。
その理由は、男子がいるとリーダーシップが育たない、女子だけの方が人間関係のバランスがとりやすい、などであると思う。一方、1割くらいは、いわゆる女性らしい会話（賑々しい会話）に加わりたくないと考えているのではないか。
- ⑤私学であることをふまえたうえで、女子に対する「人間になろう」を標榜し、いろいろなプログラムを開発すべきである。（例えば、化粧とはどうあるべきか、美しい立ち居振る

舞い、喫煙について考える、などのプログラムが企画されてもよいのではないか。）

外面的、行動的な側面からも人間論にアプローチし、人間としての豊かさやその対極にある卑しさ、貧しさとは何かを考え合う機会を持つことが望まれる。

このことは、社会や保護者たちの求めるところでもあるように思う。総合学園として、中学校、高校とも連携しながら、「栢山はいい。栢山の生徒・学生は豊かだ。」と社会的に認知されるようなアピールを行い、名古屋大学のミニチュア版でない、あるところにあるべき独自のプログラムを配したパイオニア的女子大でありたい。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①男女共同参画社会の理念は当たり前のことであるが、実態が伴わず、半分まやかしてであるように思う。不平等のアンチテーゼとして出てくるならよいが、平等とはいえない現状があり、性差がある。また、それに付随した母性、女性性のエレガンス（立ち居振る舞い、化粧、食事のしかたなどの美しさ）など、大事にしたい部分もある。
- ②職場においては、次第に男女がフラットな関係に向かっているという点で前進した気がするが、家庭においては、個別の家庭像・女性像がある。それぞれにおいて調和が図られていけばよい。
- ③男女共同参画社会が本当の意味で進んでいけば、男性より女性であることにメリットが大きいのではないかと思う。
女子大としても、男女共同参画を推進していくための努力を独自に進めていくべきである。女子大の存在意義はあると考える。

.....

【ケース21】50代 男性

(1) 栢山女学園で育てたい女性像について

- ①生きるうえでの困難やトラブルに直面した時、的確に判断できる女性になって欲しい。
そのためにも精神的、経済的に自立することと、批判力、そして異質な他人を受け入れることができる自分を育てることが肝要であると考えます。
- ②授業のなかでは調べてまとめる力を重視し、発表したりする機会や発問に工夫して、自分の考えや意見を述べる機会をできるだけ増やすように努めている。また、自分を他人との中で客観的に見つめられるよう、日常的生活指導やクラス指導、生徒とのコミュニケーションなどでは特に留意してきた。
- ③学んだことが活かされる社会の実現と卒業後の職業等を通じて自己実現できる場所の保障を強く念願しているように思う。そのための可能性を大いに引き出す場所が本学でありたいと考える。
- ④別学指向が社会一般の傾向のなかで、本学生徒も特に強く自分の学校が女子教育機関であることを日常的に意識していることは少ないのではないだろうか。
学校生活を普通に過ごす中で、教育の成果として本校の伝統や「文化」が身につく、卒業後のある時に「女子校」で学んだことを意識するのが一つの理想と考える。

⑤本学の幼稚園から大学までの教育理念は「人間になろう」ということで、これからの方向性も示していると思われる。今後は、私学経営の戦略と併せて、一層の内実化をはかる必要があると考える。女子教育の利点は、内実化のプロセスの中で、子どもの発達・成長段階も考慮して考えるべきであり、社会が求める力に応えるだけの能力をのばすことがまず基本におかれねばならないと考える。その点で、キャリア教育の重要性を感じる。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①双方が対等なパートナーとして共に人生を歩める関係が望ましい。その点で多様な形があっていいし、固定した生き方は窮屈かもしれない。とにかく自分らしく生きることが求められているように思う。
- ②社会的環境整備（職場環境など）が、まだ十分にすすんでない様に思う。やはり、両性が協力して改革をすすめつつ、時には仕事上の仲間の理解と共同行動を推進しつつ行政にも働きかける必要を感じる。そうして地道に「調和」をすすめることが賢明に思う。
- ③日本の社会全体が真の意味で共同参画社会になり得ていない現状がある。今後、一層、教育の現場で共同参画社会の必要と実現のための努力をアピールすることが肝要であると思う。女子教育機関はその意味で女性自身に実現の可能性の必要性和希望や可能性を発信する場でありたいと考える。

【ケース22】50代 女性

(1) 相山女学園で育てたい女性像について

- ①精神的にも身体的にも「美しい女性」になってほしい。立ち居振る舞いにおいても美しさのある女性になってほしい。

社会的環境が変化するなかで、家庭での躰が希薄となっているが、まずは、節度ある人格を身につけてもらい、それをベースに個々の能力を活かしてほしい。

- ②学生自身が、いろいろな場面で自分がどう行動したらよいかを判断できるようになるよう「道標的なもの」を教える機会を与えたいと考えている。

ゼミ生に対して、自分から研究室をきちんと管理することや、時間を守ること、遅れた場合にきちんと説明することなどを求めている。監督する人がいなくてもルーズにならないような指導を心がけている。ただし、小うるさく言うのは苦手なので、なるべく表情などを通して、学生に伝えるようにしている。また、学生にそのように指導するためには、自分もそれらを実践するようにしている。

教育内容については、学生が、常に社会の情勢を実感できるよう、時代の動きやニーズを授業内容に反映させるようにしている。ただし、「基本+時代のニーズ」というかたちで、「変わらないこと」をしっかりと押さえた上で、新しいこと＝「変わることも」取り入れていくようにしている。

外部機関とのつながりをもたせることも、学生にとってプラスであると考え、実践している。

③本当に一生働きたいと考えているのは、10人に1人あるかないかという程度ではないか。

学生たちの結婚観・子育て観は、その学生が育った環境によって異なる。いわゆる「鍵っ子」として育った学生などは、子育て期間は家にいたいと思っている場合が多いように感じる。

(とくに女性の場合) いろいろな生き方があり、仕事を一回辞めても、契約社員などのかたちで再就職するような場合も多く、将来像も多様である。

④女子大であることは、あまり意識されていないように思う。ただし、共学校から進学してきた学生は、女子だけであると行儀が悪くなる、と言っている。

⑤私立だから、いろいろなことに挑戦できると思う。

「椋山の学生はきちんとしている」と社会的に認知されるように、カリキュラム以外の独自の講座を積極的に開くとよい。とくに、(就職指導などの目的を前面に押し出して)「マナー講座」などを徹底的に実施するとよいと思う。

(2) 男女共同参画社会全般について

①性役割については、どちらかといえば肯定的にとらえている。性差を認めたくえて、ジェンダーバイアスに留意し、それぞれの良い所を伸ばせるように生きあうべきではないか。女性一人で働き自立的に生きていける人は、まだ限られていると思う。

②自分自身のこれまでの生き方を振り返ると、仕事はしてきたが、反面、家庭(生活面)のことはきちんとできなかつたという思いがある。両者が調和できるような社会になってほしい。そのためには、福祉の充実が求められるが、福祉が充実しすぎると親が育児に関与しなくなる、といった弊害もあるのではないか。

③男女共同参画の時代を迎えても、女子大が果たす役割はある。女性が男性を認めてきたように、男性が女性を認める社会を築くためにも、やるべきことがあると思う。戦後の教育の平等は、表面的で画一的な平等であったが、男性と女性が互いの特性を活かしあうような新たな男女共同参画の時代を確立するために、女子大に何かができる気がする。

.....

[ケース23] 50代 女性

(1) 椋山女学園で育てたい女性像について

①知性・教養・礼儀を身につけた女性

②教科では幅広い知識と考える方法を。学校生活においては正しい言葉遣い。クラブ活動では皆と協力し、時間を守り礼儀正しくすることに留意している。

③1と同じだと思っている。

④本校の存在理由であると思う。共学化が多い中、その特性を活かすチャンスが増えている。

⑤女性としての特質を大切に、社会貢献の意識を育てる。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①欠点を補い合って仲良く。
 - ②大切。両方とも楽しみたい。
 - ③女子校は、男性性・女性性について学びやすい環境なので、女性の社会進出（古い言葉だが）に資するところは共学よりも大きいと思う。
-

【ケース24】50代 女性

(1) 相山女学園で育てたい女性について

- ①広い視野のもとに自分の考えを持ち、しっかり生きていける女性。
- ②教科であれ、他の活動であれ、折りに触れ関りあることにはきちんと解説を入れるようにしている。
- ③ハッピーにしっかり生きている女性。
- ④女子だけだからこそ、生徒会長も力仕事もすべて女性が担当していく経験が持てる。
- ⑤受験偏重学力でなく、中等教育としての幅広い基礎学力を着実につける。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ①互いを尊重しつつ、自由に自分の力で生きていく。
 - ②仕事を中心におき、傍らでそれとは離れた充実した空間を持つ。
 - ③日本がまだ本来の意味での男女共同参画社会にはなっていない今、女子がすべてを企画・実施・決定し、リーダーにもなるという学校社会を経験させることは大いに意義あり。
-

【ケース25】70代 男性

(1) 相山女学園で育てたい女性について

- ①社会に出た後そこで役立つような力を身につけてほしい。そのためには、あらゆる場面でマネジメントの能力が必要であるが、それとあわせて法律の力も要求されることが多く、法的な問題にぶつかったときに適切な基本的な対応ができるような勉強もしてほしい。
- ②大教室の講義などでは限界があるが、できるだけ実際の行政の動きに触れてもらうことが必要であるので、国や自治体での新しい考え方や行政の実践などにも触れてもらうことができるように、必要な資料の配布やビデオの視聴等にも努めることとしている。
- ③個人差があり、一律にいうことはむずかしいが、早い時期から目標を定めて、その実現に取り組もうとする学生は、多いとはいえないように思う。
- ④大部分の学生は、自由にのびのびと学生生活を送り、マナーもよいと思う。ただごく一部であるが、授業中に注意してもなかなか私語をやめないなどマナーに問題のある学生もいないではない。他人に迷惑をかけないように常に注意をしてほしい。そして、今後更に名実共に本学がマナーのよい大学であってほしいと思う。
- ⑤今までのややもすれば男性中心社会といわれてきた日本の社会を真に男女共同参画社会にするには、男女共同社会やジェンダーの問題を、しっかりと教育研究の軸にとり

あげることが必要であり、各教科においてもそのような視点を強化することが望まれる。なお、少子化等により、今後の日本の労働力に占める女性の比重はますます重要になり、その面から見ても女子大における女性の教育は、重要である。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ① これからのわが国においては、男女の性別にかかわらず、能力のある者が力を発揮していくことが大切である。その意味で、今後女性にはますます期待が大きいので、女性は、生涯をかけて、実力を備えるための努力を重ねなければならない。椋山の学生の一部には、難しい道に行くより楽な道を選ぼうとする学生も見受けられる。しかし、これからの男女共同参画社会の実現は、女性が力を付けていくことにかかっているとみえるのであり、ある意味で闘いが必要である。その闘いは、女性らしさも忘れずに、しっかりと進めて欲しいと思う。良妻賢母は、太平洋戦争前に女性の美德とされたが、現在の社会が女性に期待するのは、女性が男性と共に社会の中で活躍することであると考えられる。
- ② 力を十分に発揮しつつも、女性らしさが大切である。
- ③ 男女共同参画は、男女平等ということから始まり、それを一段と前進させるものではあるが、現実には、まだまだ理想的な姿にはほど遠い。その実現には、根本的には、男性の意識改革が大きな意味を持つが、大学としては、当面、男女共同参画社会で、政治・行政、企業・地域の各方面で中心的な活躍ができる女性の養成を図っていくべきであると考えられる。

.....

[ケース26] 70代 男性

(1) 椋山女学園で育てたい女性について

- ① 常識のある女性。すなわち約束を守る、責任感がある、他人に迷惑をかけない女性。
知性・教養・マナーが備わり、何でもよいので他の人のモデルになれるものがある女性。
- ② 学生に感動を与えられる授業を心がける。「人間論」の講義では、手本とすべき女性を紹介している。学生には矜持を保つことを大切にしてほしい。
- ③ 平凡な主婦だと思ふ。ただ、その場合にも自分の専門や生き方を子どもに誇れる女性であってほしい。
- ④ 先輩の影響は非常に大きい。
- ⑤ 何よりも、権力におもねることのない、いい教員を採用することが肝要である。

(2) 男女共同参画社会全般について

- ① 真の平等は不可能ではないだろうか。男女の価値観が違う。
- ② 男性は、女性のように、仕事と家庭を切り離しにくい。せいぜい週末の活用しかないのではないか。
- ③ 女性の役割、女性は何をすべきか、女性の領分を考えるべきである。

2 学生に対するアンケート調査について

1) 調査の目的

本調査では、男女共同参画時代を迎え、女子大学に学ぶ本学学生が、どのような女性・人間になりたいと考えているかについて明らかにすることを目的とする。ここでは特に、前章でみた、教員が育てようとしている女性像・人間像と学生が理想とする女性像・人間像が一致しているのか否かについて検討することを意図した。また、理想の女性像・人間像のみならず、職業と家庭生活をめぐるライフスタイルや性役割などに関する学生の志向や意識をとらえ、今後、本学学生の特性に応じた教育を展開するうえでの一助としたい。

2) 調査の方法

本調査にあたっては、平成18年1月に、東珠実研究員が授業終了後の時間を用いて、学生による自記式アンケートを実施し、分析を行った。ここでは169名（現代マネジメント学部1年生110名および生活科学部2年生59名）から有効な回答を得たので、これを分析対象とし、可能な範囲で学部間の比較を行い、各学部学生の特徴をとらえることにした¹⁾。

3) 調査の内容

調査の内容は、以下の4項目である。

- ①理想の女性像・人間像
- ②理想の将来像（ライフスタイル）と予想される将来像（ライフスタイル）
- ③望ましい仕事と家庭生活・地域活動への関わり方
- ④性役割に対する意見

本調査での回答は、選択肢方式とし、各設問の選択肢の作成にあたっては、先行研究や先行調査の結果を参照した。すなわち、①の選択肢については、伊藤裕子による男性役割期待、女性役割期待、理想の自己像の評価のための特性リスト（形容詞リスト）を²⁾、②～④の選択肢については、内閣府「男女共同参画に関する世論調査」にみられる選択肢³⁾を適宜利用した。

なお、調査用紙は、＜別紙資料＞のとおりである。

4) 調査の結果および考察

4.1 理想の女性像・人間像

4.1.1 全体的な特徴

「あなたは、どんな女性（人間）になりたいと考えていますか」という設問に対し、「作動性」「共同性」「美と繊細さ」に関係する36の形容詞リスト⁴⁾から5つを選択させた結果は、表1および図1のとおりである。

本学学生が、最もなりたいのは「思いやりがある」女性・人間で、半数近くの学生が、これを支持している。次いで、3分の1以上の学生が「自分の生き方のある」女性・人間を

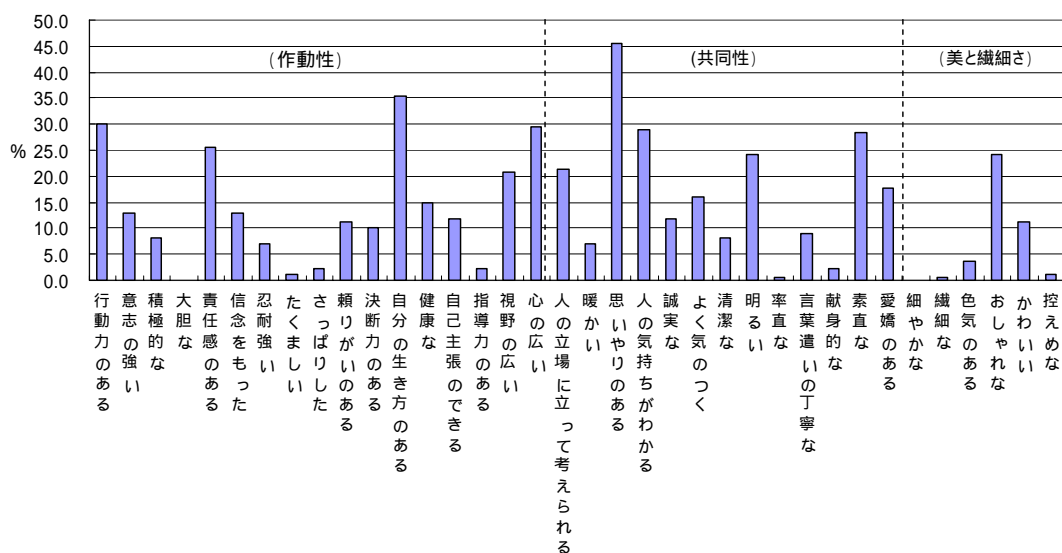
支持し、さらに約3割の学生が「行動力のある」「心の広い」「人の気持ちがわかる」「素直な」女性・人間になりたいと考えている。

表1.理想の女性像・人間像

関係因子	特性	人数	%	関係因子	特性	人数	%	
作動性	行動力のある	51	30.2	共同性	人の立場に立って考えられる	36	21.3	
	意志の強い	22	13.0		暖かい	12	7.1	
	積極的な	14	8.3		思いやりのある	77	45.6	
	大胆な	0	0.0		人の気持ちのわかる	49	29.0	
	責任感のある	43	25.4		誠実な	20	11.8	
	信念を持った	22	13.0		よく気をつく	27	16.0	
	忍耐強い	12	7.1		清潔な	14	8.3	
	たくましい	2	1.2		明るい	41	24.3	
	さっぱりした	4	2.4		率直な	1	0.6	
	頼りがいのある	19	11.2		言葉遣いのていねいな	15	8.9	
	決断力のある	17	10.1		献身的な	4	2.4	
	自分の生き方のある	60	35.5		素直な	48	28.4	
	健康な	25	14.8		愛嬌のある	30	17.8	
	自己主張のできる	20	11.8		美と繊細さ	細やかな	0	0.0
	指導力のある	4	2.4		繊細な	1	0.6	
視野の広い	35	20.7	色気のある	6	3.6			
心の広い	50	29.6	おしゃれな	41	24.3			
				かわいい	19	11.2		
				控えめな	2	1.2		
				N.A.	2	1.2		
				合計	169	100		

注: 1) 回答は1人5つの特性を選択する複数回答による。
 2) N.A.とは、5つの特性を選択すべきところ、4つの特性しか選択していない者の人数を表す。
 3) %は全調査対象者169名に対する割合を表す。

図1.理想の女性像・人間像



次に、この結果を教員が育てたい女性像・人間像と照合することにする。前章でみた教員が育てたい女性像・人間像に求められる要素は、概ね「自立能力」「共生能力」「美しさ」の3つに分けてとらえられる。「自立能力」とは、自分のやりたい道やライフワークを見つ

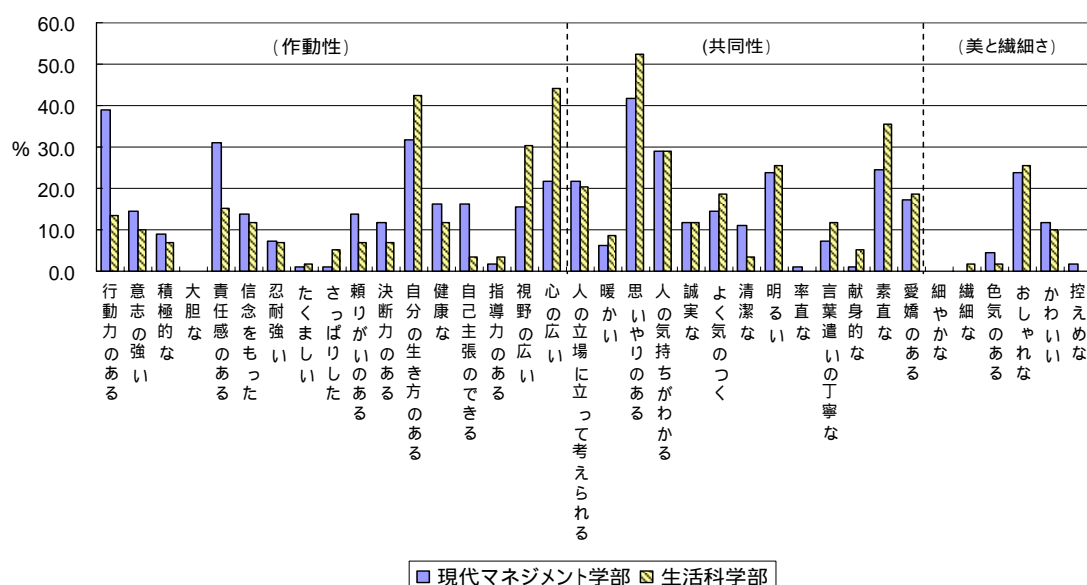
け、それによって自立できる能力である。すなわち、問題解決能力や批判能力を備え、社会のニーズに応えられるような、たくましく、積極的で、責任感のある強い女性・人間の育成が、個々の教員の目標とされている。他方、「共生能力」とは、思いやりがあり、人を気遣い、相手の立場に立って考えられる、やさしく、豊かな女性・人間である。さらに言葉づかいや立ち居振る舞いが美しく、マナーを身につけ、エレガンスをもった心身ともに「美しい」女性・人間がいま一つの求められる要素となっている。これらの3つの要素は、図1の「作動性」、「共同性」、「美と繊細さ」のカテゴリーにはほぼ対応すると思われる。

教員が育てたい3つの要素のうち、「自立能力」については、学生の回答において「自分の生き方のある」「行動力のある」「責任感のある」女性・人間になりたいと考えている者が多いことから、教員と学生の志向は、ほぼ一致していると考えられる。また、「共生能力」についても同様に、学生の回答で「思いやりのある」「人の気持ちがわかる」などを支持するものが多いことから、教員と学生の間で目指すべき姿の一致がみられる。これに対し、言葉遣い、マナー、エレガンスを備えた「美しさ」という要素については、「おしゃれな」生き方が学生に志向されてはいるものの「言葉遣いの丁寧な」「細やかな」「繊細な」といった要素を重視する学生はきわめて少なく、マナー的な側面において、教員と学生との間で求める姿に開きがみられるように思われる。

4.1.2 学部別にみた特徴

理想の女性像・人間像について現代マネジメント学部と生活科学部の間で比較を行うと、図2のようである。

図2. 理想の女性像・人間像の学部間比較(現代マネジメント学部、生活科学部)



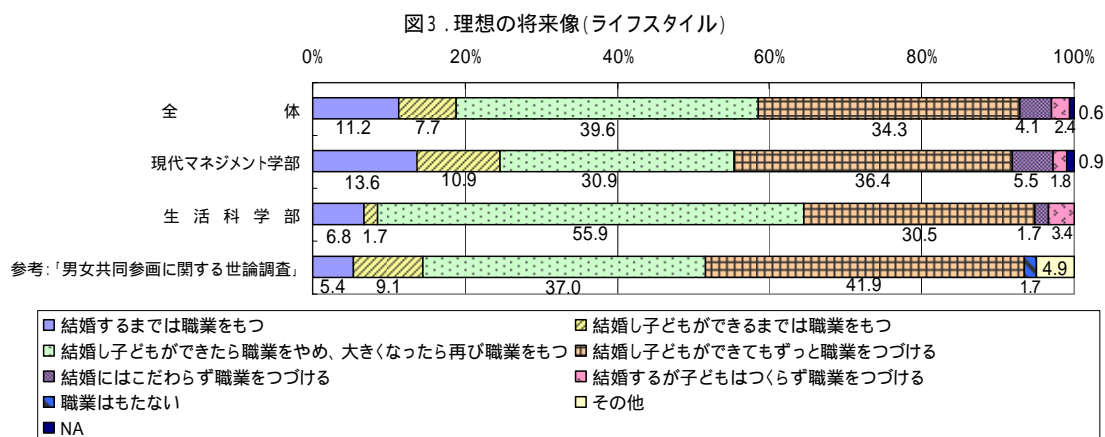
上で指摘した「思いやりのある」女性・人間や「自分の生き方のある」女性・人間になりたいという特徴は、いずれの学部においてもみられるが、その傾向は、生活科学部でよ

り顕著である。また、両学部の違いに注目すると、現代マネジメント学部では「行動力のある」「責任感のある」「自己主張のできる」などの要素が相対的にかなり高くなっており、総じて「行動的な女性・人間」が志向されていることがわかる。これに対し、生活科学部では「思いやりのある」「自分の生き方のある」のほか、「心の広い」「素直な」「視野の広い」などの支持率が相対的に高くなっており、「心豊かで前向きな女性・人間」が志向されているようである。

4.2 理想の将来像（ライフスタイル）と予想される将来像（ライフスタイル）

4.2.1 理想の将来像（ライフスタイル）

将来の職業と結婚、出産・子育てに関する8パターンの選択肢⁵⁾に対し、「あなたが望んでいる将来像（ライフスタイル）はどのようなものですか」と質問したところ、図3のような結果が得られた。



注: 1) '男女共同参画に関する世論調査'とは、平成16年11月に実施された内閣府の調査である。図は、「一般的に女性が職業をもつことについてどう思うか」について調査した結果(支持するスタイル)を表している。

2) '男女共同参画に関する世論調査'には、「結婚にはこだわらず職業をつづける」「結婚するが子どもはつくらず職業をつづける」の選択肢はない。

4.2.1.1 全体的な特徴

将来の理想のライフスタイルについては、全体の約4割の学生が「結婚し子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ」（以下、「一時中断・再就職型」という）と回答しており、次いで、約3分の1の学生が「結婚し子どもができてもずっと職業をつづける」（以下、「継続就業型」という）と答えている。「一時中断・再就職型」と「継続就業型」は、近年の我が国の女性が理想とする2つの典型的な就業パターンであるが、内閣府「男女共同参画に関する世論調査」で女性自身の意識をみた場合、平成16年度調査で初めて、後者（41.9%）が前者（37.0%）を上回ったことが知られている⁶⁾。本学学生の志向については、前述のように、「一時中断・再就職型」が「継続就業型」を上回る結果となっているが、内閣府調査においても、20歳代の女性に限定してみた場合には同様の傾向がみられることから、子育て期に一時仕事を中断したいという志向は、本学のみならず、若い

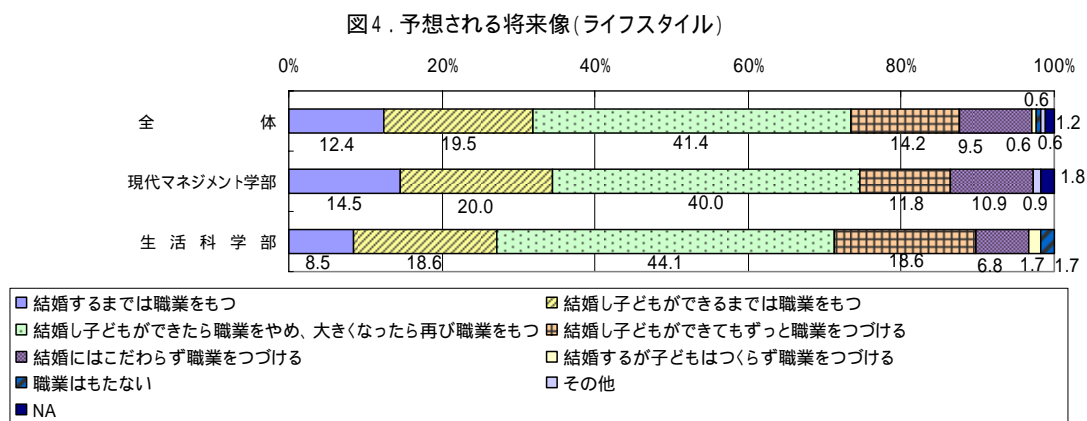
女性に共通にみられる特徴のようである。

4.2.1.2 学部別にみた特徴

図3の学部別の特徴に注目すると、「一時中断・再就職型」は生活科学部で、「継続就労型」は現代マネジメント学部で、より多いことがわかる。とくに、生活科学部の「一時中断・再就職型」志向は顕著で、半数以上が、このパターンを理想としている。また、現代マネジメント学部においては、「継続就労型」が相対的に多い一方で、「結婚するまでは職業をもつ」（以下、「結婚離職型」という）、あるいは「結婚し子どもができるまでは職業をもつ」（以下、「出産離職型」という）と回答している者も一定数みられる点が特徴的である。生活科学部では「結婚離職型」や「出産離職型」を志向する者は、きわめて少ない。

4.2.2 予想される将来像（ライフスタイル）

次に、将来の職業と結婚、出産・子育てに関する8パターンの選択肢に対し、「(あなたが)実際に歩むことになりそうなライフスタイルはどれですか」と質問したところ、図4のような結果が得られた。



4.2.2.1 全体的な特徴

図4（予想される将来像）について、図3（理想の将来像）と比較しながら、全体的な特徴をとらえると、「一時中断・再就職型」の占める割合に大きな変化はみられないものの、「理想」に比べて「予想」では、「継続就業型」が極端に少なくなる一方で「出産離職型」は2倍以上になっている。個々の学生の回答に注目すると、「継続就業型」を理想としながら現実には「一時中断・再就職型」になるだろうと考えている学生や、「一時中断・再就職型」を理想としながら現実には「出産離職型」になるだろうと考えている学生が多くみられることがわかる。

4.2.2.2 学部別にみた特徴

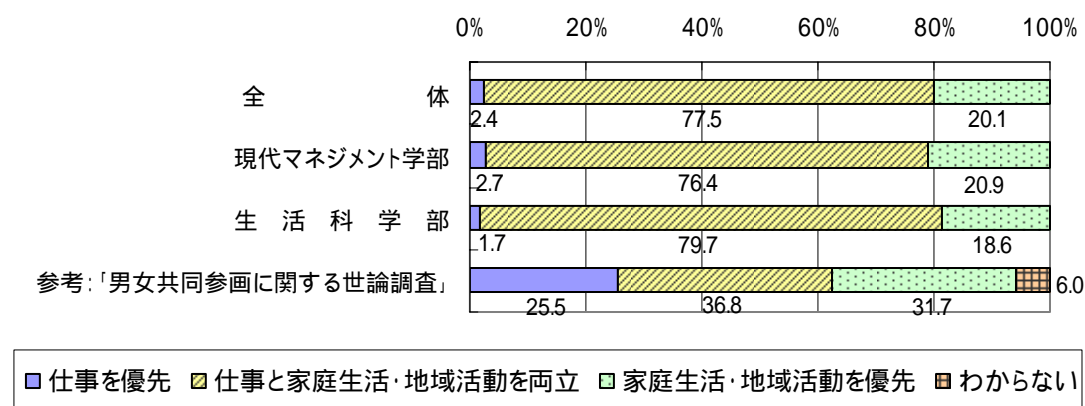
上で指摘した、「理想」に比べ「予想」では「継続就業型」が減り「出産離職型」が増えるという傾向は、いずれの学部においてもみられるが、とくに、現代マネジメント学部にも

における「継続就業型」の減少傾向と、生活科学部における「出産離職型」の増加傾向は顕著である。結果として、現代マネジメント学部では、生涯働きつづけることを予想している学生は1割強にとどまり、3人に1人は結婚または出産で仕事を辞め、その後も再就職をしないことを想定している。生活科学部でも2割弱の学生が「継続就業型」を予想しているものの、4人に1人以上は結婚または出産で離職することになると考えている。

4.3 望ましい「仕事と家庭生活・地域活動への関わり方」

「あなたが望ましいと思う「仕事と家庭生活・地域活動への関わり方」はどのようなか」という設問に対する回答は、図5のとおりである。

図5. 望ましい仕事と家庭生活・地域活動への関わり方



注: 1)「男女共同参画に関する世論調査」とは、平成16年11月に実施された内閣府調査である。図は、同調査で、「女性が女性自身について望ましいと思う姿」をどうとらえているかを調査した結果を表している。

4.3.1 全体的な特徴

仕事と家庭生活・地域活動については、8割近い学生が「両立」することが望ましいと考えている。内閣府の「男女共同参画に関する世論調査」の結果においても「両立」を望ましいと考える女性が最も多いが、その一方で、3人に1人は「家庭生活・地域活動を優先」と回答し、逆に4人に1人は「仕事を優先」することが望ましいと答えるなど、多様性が認められる。これと比較した場合、本学学生については、「仕事を優先」と答えた者が2.4%にとどまっており、極端に少ない結果となっている。

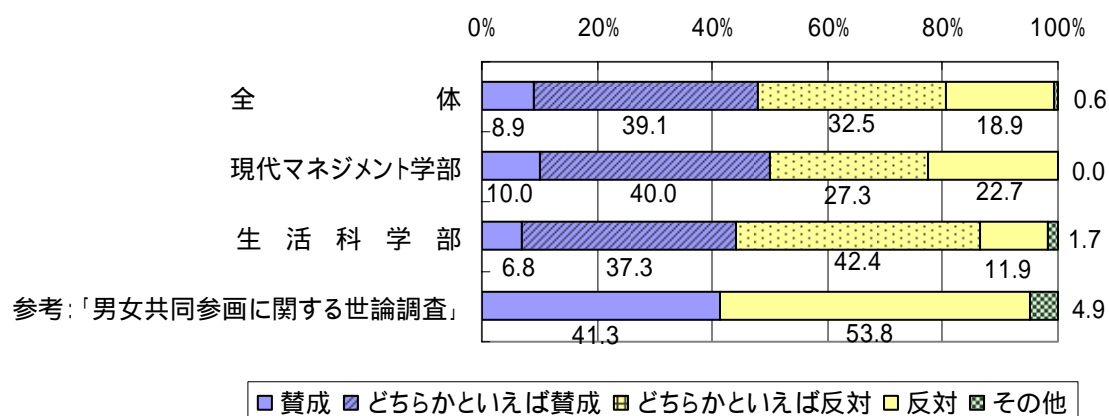
4.3.2 学部別にみた特徴

現代マネジメント学部、生活科学部ともに8割弱の学生が仕事と家庭生活・地域活動の「両立」を志向している。「仕事を優先」と答える者が極端に少ない点も共通しており、学部別の大きな違いは認められない。

4.4 性役割に対する意見

「あなたは「夫が外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか」という設問に対する回答は、図6のとおりである。

図6. 性役割(「夫が外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方)に対する意見



注: 1) 「男女共同参画に関する世論調査」とは、平成16年11月に実施された内閣府の調査である。図は、「夫が外で働き、妻は家庭を守る」という考えについてどう思うかを調査した結果を表している。
 2) 「男女共同参画に関する世論調査」には、「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」の選択肢はない。

4.4.1 全体的な特徴

「夫が外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方（以下、「性役割」という）に対し、「どちらかといえば賛成」とする者が4割弱、「どちらかといえば反対」とする者が3割強となっており、明確に「賛成」「反対」と答える者は相対的に少ない。「賛成」に「どちらかといえば賛成」を加えた「賛成派」と「反対」に「どちらかといえば反対」を加えた「反対派」に分けてとらえなおすと、前者が48.0%、後者が51.4%でほぼ半々となるが、わずかに「反対派」が多いという状況である。内閣府の「男女共同参画に関する世論調査」によれば、「賛成（派）」が41.3%、「反対（派）」が53.8%という結果であることから、本学学生については、性役割「賛成派」が若干多めであることがわかる。

4.4.2 学部別にみた特徴

学部別に比較すると、現代マネジメント学部では、性役割に対し明確に「反対」と答える者が多く、その割合は、生活科学部の約2倍となっている。しかしながら、全体的にみた場合には、現代マネジメント学部では「賛成派」と「反対派」がちょうど半分ずつであるのに対し、生活科学部では前者が44.1%、後者が54.3%となっており、生活科学部の方が若干「反対派」が多いという結果になっている。なお、生活科学部の結果は、内閣府調査とほぼ同様の傾向を示していることが明らかである。

5) まとめ

以上にみてきたように、本学学生は、自分の生き方をもち、他者への思いやりのある女性・人間になりたいと考えており、とくに現代マネジメント学部では「行動的な女性・人間」が、生活科学部では「心豊かで前向きな女性・人間」が志向されていることがわかった。また、これらの学生の思いは、教員が育てたい女性像・人間像にかなり近いものであることが確認されたが、一方で教員が望むマナー的側面の重視については、学生の志向に一致するところがみられなかった。さらに、本学学生の職業志向は必ずしも強くはなく、理想としては就業をずっと継続したいが、現実にはそうならないだろうと考えている者が多いことや、仕事と家庭生活をライフステージに応じてバランスよく両立させ、自分らしく生きようとしている点などを特徴としてとらえることができた。

今回の調査は、きわめて限られた学生を対象としており、学部も偏っているという問題点があるが、その結果からは、一定の興味深い傾向が認められた。本調査を、本学学生の理想とする女性像・人間像・将来像を知るうえでの予備的調査として位置づけ、今後は、全学部の多数の学生を対象に、本格的な調査を実施したいと考える。

注：1) 今回の調査では、現代マネジメント学部と生活科学部の比較のみにとどまっている。他の学部の学生の特徴の把握については、今後の課題としたい。

2) 関智子『「男らしさ」の心理学』裳華房（1998）、東清和・小倉千加子『性役割の心理』大日本図書（1984）などを参照した。

3) 内閣府『男女共同参画白書（平成17年版）』国立印刷局（2005）を参照した。

4) 形容詞リストは、伊藤裕子の研究成果に基づいているが、性役割特性語のなかから、「作動性」「共同性」「美と繊細さ」の因子を抽出したのは、柏木恵子である。なお、調査票の中では、3つの因子について明記されていない。

5) 7つの想定されるライフスタイルと「その他」の合計8つである。

6) 前回調査（平成14年調査）では、女性のうち「一時中断・再就職型」を支持する者が40.6%、「継続就労型」を支持する者が38.0%で、前者が後者を上回っていた。

理想の女性像・人間像に関するアンケート

本調査は、相山人間学研究センターの女性論プロジェクトの一環として実施するもので、男女共同参画時代を迎え、
本学の学生がどのような女性（人間）になりたいと考えているかを明らかにすることを目的としています。
調査の結果は、統計的に処理し、調査の目的以外には使用しませんので、ご協力をお願いします。

相山人間学研究センター「女性論」プロジェクト/アンケート担当 東 珠実

【Q1】あなたは、どんな女性（人間）になりたいと考えていますか。特に重要だと思うものを5つ選んで、回答欄に番号を記入してください。

1. 行動力のある
2. 視野の広い
3. 細やかな
4. 素直な
5. 愛敬のある
6. 信念をもった
7. 忍耐強い
8. たくましい
9. おしゃれな
10. 頼りがいのある
11. 決断力のある
12. 自分の生き方のある
13. 自己主張のできる
14. 指導力のある
15. 意志の強い
16. 心の広い
17. 健康な
18. 人の立場に立って考えられる
19. 暖かい
20. 色気のある
21. 人の気持ちがわかる
22. 誠実な
23. よく気のつく
24. 清潔な
25. 明るい
26. 率直な
27. 言葉遣いのていねいな
28. 献身的な
29. 大胆な
30. 責任感のある
31. 積極的な
32. 繊細な
33. 思いやりのある
34. さっぱりした
35. かわいい
36. 控えめな

※回答欄

--	--	--	--	--

【Q2】あなたがもっとも望んでいる将来像（ライフスタイル）はどのようなものですか。また、実際に歩むことになりそうなライフスタイルはどれですか。それぞれについて最も近いものを1つ選んで回答欄に記入してください。

1. 結婚するまでは職業をもつ
2. 結婚し子どもができるまでは職業をもつ
3. 結婚し子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ
4. 結婚し子どもができてもずっと職業をつづける
5. 結婚にはこだわらず職業をつづける
6. 結婚するが子どもはつくらず職業をつづける
7. 職業はもたない
8. その他（具体的に： _____）

※回答欄

望んでいるライフスタイル		実際に歩むことになりそうなライフスタイル	
--------------	--	----------------------	--

【Q3】あなたが望ましいと思う「仕事と家庭生活・地域生活への関わり方」はどのようなですか。最も近いものを1つ選んで解答欄に記入してください。

1. 仕事を優先
2. 仕事と家庭生活・地域活動を両立
3. 家庭生活・地域活動を優先

※回答欄

--

【Q4】あなたは「夫が外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか。最も近いものを1つ選んで回答欄に記入してください。

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対

※回答欄

--

<ご協力ありがとうございました>

3 女性学・ジェンダー学関連カリキュラム調査について

1) 調査の目的および方法

本学園では、中学校、高等学校および大学各学部において、多様なかたちで女性学・ジェンダー学関連カリキュラムが展開されている。そこで、平成17年度の当該カリキュラムの実態をとらえ、その特徴や問題点を明らかにすることを目的に調査を実施した。調査にあたっては、5名の研究員が各部署を分担した（太田文子研究員：中学校・高等学校、塚田文子研究員：文化情報学部、藤原直子研究員：人間関係学部、森川麗子研究員：生活科学部、国際コミュニケーション学部、現代マネジメント学部）。

2) 調査の内容

本調査では、各学校・大学学部等の現状やシラバス（『2005 授業内容一覧』）などをふまえながら、どのような科目等の中で、どの学年を対象に、こういったテーマ等にかかわって、女性学・ジェンダー学に関連する内容が指導されているのかを把握することにした。

3) 調査の結果および考察

本学園における、今年度の女性学・ジェンダー学に関連すると考えられるカリキュラム等については、以下のように3つに分けてとらえることができた。

まずは、明らかに女性学・ジェンダー学関連科目に分類できるものをまとめてみる。これは、女性学・ジェンダー学関連カリキュラムにおける「核科目群」と呼べる。

開設部署	科目名	学年	授業・講演題目等
中学校	総合「人間」（「ジェンダー」に関する取り組み）	1・2	「ジェンダー入門」
高等学校	総合「人間」 ・「ジェンダー」に関する取り組み	1 3	分科会型講演会「人権」のなかで「ジェンダー」ビデオ視聴『ミレニアムの女性たち』12本から1本を選んでクラスで視聴感想文を書く。
中学校・高等学校	土曜講座（課外活動であるがあげて掲載しておく）		「身近にあるジェンダーを考えよう」
人間関係学部	ライフスタイル論	全学年	専門教育科目・学科科目B「女性のライフスタイルに関する科目」
	女性とライフステージ	全学年	上記に同じ
	ジェンダー・セクシュアリティ論Ⅰ	全学年	上記に同じ

人間関係学部 (つづき)	女性と社会	全学年	上記に同じ
	女性と職業生活	全学年	上記に同じ
	女性と教育	2～4	上記に同じ
	女性史	2～4	上記に同じ
	女性と文学	2～4	上記に同じ
	家族と人間Ⅰ	全学年	上記に同じ
	ジェンダー・セクシュアリティ 論Ⅱ	全学年	専門教育科目・現代社会 科目群
	家族と人間Ⅱ	全学年	上記に同じ
	ジェンダーと国際社会	2～4	専門教育科目・人間環境 科目群
文化情報学部	ジェンダー論	3・4	専門教育科目
国際コミュニケー ション学部	女性論 A・B	1～3	専門教育科目
	都市とジェンダー	2・3	学科専門科目・「都市にお いて生じるジェンダー問 題」
	ジェンダー論研究 IA・IB	3	卒業論文準備科目・「現代 社会とジェンダー」
	教育制度と社会	1	教職に関する科目・「教育 制度の中のジェンダーと 世代」
現代マネジメント 学部	女性論Ⅰ・Ⅱ	2	教養教育科目（①女性と 生活）
	ジェンダー論Ⅰ・Ⅱ	3	専門教育科目（専門展開 科目）

2つ目は、内容において、女性あるいはジェンダーの視点が認められたり、講義のなかで女性学・ジェンダー学への言及がある科目について一覧である。こちらは、女性学・ジェンダー学の周辺領域に位置する「周辺科目群」と考えられる。

開設部署	科目名	学年	授業題目・内容等
中学校	家庭科	3	「私たちの家族 地域」
	保健体育	1	性機能の成熟、性とどう向き合うか、人との関り、自分らしさ

中学校 (つづき)	総合「人間」 ・ 性教育	1	生と性の講演会「好きですか 自分 のからだところ」
	総合「人間」	2	生と性の講演会「思春期の生と性」
	・ 性教育 (つづき)	3	生と性の講演会
高等学校	家庭科	1	「自分らしく生きる」・ライフス テージごとの特徴と課題 「人とかかわって生きる」・家族や 家庭の意義、家族と法律、男女共同 参画社会の実現
高等学校 (つづき)	保健体育	1	感染症とその予防、エイズとその予 防
		2	性意識と性行動の選択、結婚生活と 健康、妊娠出産と健康、家族計画と 人工妊娠中絶、性とどう向きあう か、自分らしさ
生活科学部	地理 B	1	教養教育科目・「住まいとジェンダ ー」と題した講義を含む。
	教職総合演習	3	教職に関する科目・「ジェンダーと 日本社会 (習慣・労働)」と「ジェ ンダーと国際社会・教育」というテ ーマが各 1 回取り上げられる。
文化情報学部	生活と法	3・4	教養教育科目・「家庭生活と法」「女 子労働と法」と題した講義を含む。
国際コミュニケー ション学部	現代女性文学	2・3	学科専門科目・「現代女性文学」
現代マネジメント 学部	人間論	1	全学共通科目・オムニバス形式・「凜 として生きた女性たち」と「対等な 人間関係：ジェンダー視点から」と 題した講義を各 3 回含む。
	生活の経営	1	教養教育科目 (①女性と生活)・「家 庭内労働と社会労働」「家族の人間 関係と生活経営」と題した講義を含 む。
	生活の設計	2	教養教育科目 (①女性と生活) ライ フデザインシート作成 5 回を含む。

	法と市民社会	3	教養教育科目（③人間理解と社会）・「家族と法」「女子労働と法」と題した講義を含む。
--	--------	---	-------------------------------------------

最後は、大学においてゼミと呼ばれる各種の演習科目についてである。各学部には多くのゼミがあり、これは少人数クラスを基本とするだけではなく、4年次の卒業研究・卒業論文へと段階的に展開される授業である。この中には、個々の教員ごとに、女性学・ジェンダー学と深く関りながら指導がなされているものが少なくないと推測している。しかし、今回の最大の情報源である学部ごとの「授業内容一覧」からは判別しにくいいため、多少の例外を除いて演習関係の科目は上の2つの表に入れることを控えた。

藤原直子研究員によれば、人間関係学部では、「各担当者の専門分野にひきつけて、女性・ジェンダーの視点を取り入れた授業が展開」され、「教員相互でインフォーマルな形で授業内容のミーティングを持つ場合もある」とのことであった。因みに、こういう背景があるからこそ、人間関係学部の多くの科目を最初の「核科目群」一覧に挙げた次第である。

上の2種類の科目群をあわせて考えれば、本学園全体における女性学・ジェンダー学に関連するカリキュラムは、ある程度の規模と多様性を備えているとも考えられる。しかし、「周辺科目群」はあくまでも周辺であって、核科目群とは区別されなければならない。すなわち、核科目群の多様性や強靭さは、核科目群自体でしか築けないという意味である。

このような点をふまえると、核科目群の不十分さに、本学園の女性学・ジェンダー学関連カリキュラムの問題が認められると結論できるのではないだろうか。また、大学における学部間格差の是正についても、今後の課題としなければならない。したがって、本学園の女性学・ジェンダー学関連カリキュラムについては、「人間になろう」と関連づけた、全学園での拡充が必要であると同時に望まれる。

明日のために：おわりにかえて

本プロジェクトの活動は、決して十分な時間に支えられたものではなく、研究員による全体会合の日程調整すらままならないほど、多忙ななかでの実践とならざるを得なかった。同時に、この報告は、最終報告というよりは、中間報告と呼んだほうが正確かもしれない。なぜなら、インタビュー結果および女性学・ジェンダー学関連カリキュラム調査結果は上術の通りだが、それをもとにした研究員相互の議論が未完のままこの報告書を作成する時期を迎えてしまったからである。

時間管理にしても、全体の計画や運営にしても、プロジェクト全体の責任は私（森川麗子研究員）にあるが、昨秋からの限られた時間と個々の研究員の多忙さを思い起こせば、ここまでできたことのほうが驚きだ、というのが今の正直な気持ちである。先生方へのインタビューは26名であったが、6人の研究員がいたからこそ可能となったことも事実である。

インタビューという方法に最も疎い者がリーダーだったために、インタビュー結果報告部分が予想をはるかに越えた長文となってしまった。しかし、結果報告文は、インタビューの再現文とも言える内容になっているものが多い。もしインタビュー方法というものに精通していたら、私は、最初にさまざまな条件下でのインタビューを研究員の先生方に要請していたにちがいない。予想外の長さは予想外の多様な内容を生み出したと私は肯定的に捉えるのだが、いかがであろうか（規定枚数超過をお許しいただければの話であるが）。

実際、こういう質問を媒介として、直接的にしる間接的にしる、同僚の先生方と向かいあうという経験は、私には非常に興味深く、多くの発見につながった。この報告書をまとめながら何度も目を通してると、考え方の素晴らしさ、若さと熱意、教育実践の巧みさ、言葉への敏感さ、人としての高潔さ、学生への暖かな思いといったものに会って、疲労が活気へと変わり、いつの間にか心楽しくなっていた。そういえば女子大学ではなく「女性大学」という言葉を意図的に使用された先生も複数いらっしやった。

太田ふみ子研究員の感想と同様で、「これを生徒・学生に読ませたいな」と私も思っている。何よりも私自身がこの報告に接して励まされたし、心楽しくなったから。学生たちの多くは、「(1) 椛山女学園で育てたい女性像について」の①②の回答に明らかなように、個々の教員がこんなにも多くの希望や思いを抱きながら、さまざまなことを日々実践しているとは気付いていないのではないだろうか。まったく何も知らないかもしれない。「教師の心、生徒・学生知らず」と言えるのではないか。だからこそ、読ませたいのである。また、授業中に、言葉で、ここに書かれた教員の思いや姿勢を伝えることは簡単ではないはずだということも、生徒・学生に読ませたいと思う理由の一つである。

コメントをするには能力不足だが、先生方のインタビュー結果には、個性や多様性だけでなく世代を超えた共通点も見出せる。たとえば、男女共同参画社会への指向性と呼べそうな傾向である。質問項目にあったからこの指向性が顕著になったという解釈も可能だろうが、私には、先生方のなかにあった思い・考えが、たまたまインタビューによって、言語表現へのきっかけを得た結果だと思われる。男女共同参画社会という言葉は、ただ、言語化のための媒介として機能したにすぎないとも換言できる。同時に、男女共同参画社会という社会モデルは、学生の側から見れば、個人的な好悪や是非とは別に、学生一人ひとりが自分の将来像を考えるときのたたき台としても非常に有効だと思う。不確実なことを考える際には、ことのほか具体的なモデルが役立つであろう。

ところで、インタビュー結果報告では、回答の最初と最後で、学生の将来に対する教員の期待が語られている。最初は、文字通り「(1) ①どんな女性になってほしいか」に対する回答だが、最後の「(2) ③男女共同参画社会と女子教育機関の関係について、どう考えているか」は、実は、学生の将来像が、男女共同参画社会という視点で表現されたものと解釈できるからである。つまり、先生方の学生への期待が、ここでは二度まで語られた。

おそらく、若い学生たちが自分の将来を考える際には、多様で具体的で「私にも手が届きそうな」モデルが役立つのではないだろうか。学生に対するアンケート調査は、学生の

思いや志向を理解する上でも貴重な資料になる、との東珠実研究員の意見によって実施され、限られた対象についてではあるが、一定の興味深い傾向を読み取ることができた。

さて、先生方に対するインタビュー結果も学生に対するアンケート結果も、ともに、学園全体から見れば、ほんの一部である。しかし、先生方の生の声と学生たちの本音が、ここに比較できる形で報告できるのは、ささやかではあるがこの報告書の特色だと自負してもいる。確かに、教員・学生ともに一部かもしれないが、決して、全体から孤立した一部ではない。全体へと敷衍していく手がかりは少なくないし、何よりも教員と学生が、相互理解を深めあう一助となれるのではないか。こんな明日へ向けた期待とともに、僭越であることを承知しながらも、本報告書を次のようにしめくりたいと思う。

今回の調査結果をもとにして、人間学研究センターの「女性論」プロジェクトという立脚点をあわせ考えると、①教員に対するインタビュー結果を何らか形で学生に提供したい ②女性学・ジェンダー学関連カリキュラムの学部間格差の解消へ向けた第一歩として、人間学研究センター主導による、全学園の生徒・学生を対象とする女性学・ジェンダー学関連プログラムの開発と実施を提案したい ③教員へのインタビュー結果と学生へのアンケート結果の双方が示唆するように、女性の多様なライフスタイルの具体的なモデルの継続的提供は重要で意義深いので、「ケース4」で言及されている貴重な実践例を参考にして、学園全体を対象として、多様な生き方の実践者と学生が胸襟を開いて語りあえるようなワークショップの開設準備を提案したい、という3点を提案して締め括りとする。なお、この「女性論」プロジェクトの活動報告全体の責任者として、次の新たなステップを踏み出すためにも、本活動報告へのご批判等をいただきたいと考えるものである。